

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みかたっこ			
○保護者評価実施期間	令和7年3月16日		～	令和7年3月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年3月11日		～	令和7年3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月25日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 学習障害への個別療育を大切にしている。宿題をみるなどの学習支援ではなく、学習障害児の持つ認知の特性（左脳より右脳が優位 等）に配慮した学びのリハビリを得意にしている。文字と音のデコーディングは、オリジナルの教材を開発し、特に、ローマ字習得や英単語の読み（フォニックス）では、効果を発揮している。 書くことが苦手な特性に配慮して、書く場面はできるだけ減らし、カード教材やパソコンを使って学ぶようにしている。 また、不登校になり学びから遠ざかっている子供さんも、学習障害のこどもさん向けのアプローチで、学びへの興味をとりもどしつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> こども一人一人に合う学びができるよう、教材を追加更新している。 みかたっこの近くにみかたっこが利用できる広場や川、公園、体育館などがあり、外遊びや、散歩、運動などの療育に活用している。 添加物の少ないおやつを提供や保護者のかたへの食に関する情報提供なども行っている。 子どもの特性を活かして遊べる様々な種類のアナログゲームを準備している。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で療育の進め方を共有する手段（教材のステップ順の一覧表など）を作る。 活動内容が固定化されないように配慮しつつ、スケジュールのルーティン化などで、見通し不安などを減らす工夫も行う。 他の放課後等デイサービス等の見学や研修を行い、療育の流れや構造化についてさらに学んでいく。 言語活動や運動など、療育の内容や場面に応じて集中できる環境づくりを進めていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい祭りや親の会など保護者も参加できるイベントや研修を開催し、積極的に交流や情報提供の機会を設けている。 SNSを利用して活動の様子等を発信したり、保護者のかたに療育の様子を見学していただく機会を設けるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習障害の特性について保護者さんに知っていただくことやその特性を生かしてどのようなアプローチをみかたっこではしているのか理解していただくための研修の場や保護者同士の意見交換を親の会で実施している。 例 11月：右脳の強みとは / 12月：みかた式発音絵記号とは お迎えの際などに、時間があれば保護者のかたにお声掛けし、療育の様子などを見学していただくようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> LDとASDの併発の場合、学習することへの抵抗が強くなっている場合がある。場合によっては、不登校になっていることもある。が、みかたっこの療育や学校ではのたらかかけをきっかけに、あるとき学ぶことへの抵抗感が取れ、もっと学びたいと思えるようになる子どもさんもいる。そういう状態になれたこどもの保護者さんに親の会で話して貰う。 保護者の方が利用計画を立てやすいように、年間や月ごとの行事予定等を早めに計画・周知するよう努める。
3	<ul style="list-style-type: none"> ADHDやASDなどの行動特性には、腸内環境を整えることも効果があるとの考え方を大切にし、腸活によいおやつや手作りのミネラル発酵ドリンク、みそスープ等を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> お楽しみ活動として、クッキング活動もできるだけ行っている。 ミネラル発酵ドリンクは、果物を収穫させてもらうところからやる場合もある。保護者さんも興味を持たれた方には、作り方を講習している。 購入するおやつを提供する場合も、添加物等には配慮している。 	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 通常学級に在籍しているLDの子供さんへの療育をもっと行いたい、そういうこどもさんにアプローチすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 雲南市の場合、行政が無料のLDのための塾を運営していることや民間事業者のちらしを学校で配布して貰えないため 	<ul style="list-style-type: none"> ニーズのある子供さんやその保護者さんに、みかたっこの存在を知って貰えるよう、どのような情報発信が有効かを考慮する必要がある。
2	<ul style="list-style-type: none"> LDだけではなく、ASDも併発している子どもさんの場合、みかたっこに通所することを渋る子供さんがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> みかたっこは、発達障害の中でも学習障害への療育を大切にしているため、こどもにとっては苦手なことに取り組むことを選けたがる場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な分野に取り組む一方、楽しい活動やこどもが主体的に参画できる活動など、こどもがみかたっこへの通所を楽しみになるような活動をもっと充実させることができるとよい。 自分の療育の成果が実感できるようなトークンを工夫する。 個別支援計画の見直しの時期以外にも定期的な面談の機会を設けて、こどものニーズの変化も把握できるとよい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい祭りなどのイベントでは、地域のこどもたちに参加してもらい交流を図りたかったが、地域の子供たちにイベント開催の情報を提供することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブは離れており、地域のこどもとの日常的な交流はむずかしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人たちとのふれあいの一環に、大東高校の生徒さんとの交流を企画する。 みかたっこで開催するイベントに地域のこどもに参加してもらうだけでなく、地域の子供も参加するイベント（七夕祭り等）と一緒に参加できるような機会も確保する。 他の放課後児童クラブと一緒にいける企画等を考える。